

諏訪地方の経済概況速報

平成24年10月

(平成24年 9月末調査)

平成24年10月22日

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫
経営相談室

<http://www.suwashinkin.co.jp>

TEL 0266(23)4567

FAX 0266(23)8044

		実 数	前年同期比	
有効求人倍率【 8月】	諏訪公共職業安定所管内	0.81 倍	+0.01 ポイント	
手形交換高【 9月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	5,185 枚	△2,157 枚	
	金 額	6,305 百万円	△2,756 百万円	
	うち不渡り	枚 数	3 枚	+3 枚
	発生状況	金 額	1,514 千円	+1,514 千円
電力使用量【 9月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	45,696 MWh	△0.4 %	
	高压電力計	95,582 MWh	△4.1 %	
	合 計	141,278 MWh	△3.0 %	
車庫証明取扱件数【 9月】(諏訪地方合計)		1,009 件	+1.6 %	
新設住宅着工戸数【H24.4月～8月】(諏訪管内)		434 戸	△15.9 %	

□本文は、当金庫の取引先約 130 社へのヒアリング調査による取りまとめ。

地域の概況

9月、日本政府の尖閣諸島国有化に反発する反日デモが中国各地で発生し、中国との結びつきが強い県内企業にも影響があった。輸出企業が多く、海外経済との連動性が高い諏訪地方の企業では、直接的なデモの被害は出ていないものの、先行きを懸念する声が多くなっている。これまでけん引役となってきた自動車関連はエコカー補助金終了後、総体的に急激な変化は少ないが、取引先や加工内容によって減速感が出ている。記録的な残暑は、主に非製造業に影響を及ぼした。

●製造

自動車部品関連の下請企業の足元の受注は、引き続き好調を維持する企業がある反面、受注が減少した企業も出ている。国内のコスト競争は激しく、収益性は厳しい。工作機械などの産業設備は、中国や欧州の景気減速で売上が伸び悩む反面、堅調な企業もある。電子部品もメーカーによって差があり、半導体は内外の需要が伸び悩み、持ち直しの動きが鈍化した。電力関連や搬送用機械は業界全体の需要があり、引き合いは増加傾向となっている。9月は多くの企業から、中国の反日デモを契機に不安の声が上がった。現地法人立ち上げや視察予定が中止になったり、決まりかけていた受注がキャンセルになるケースがあり、現在は順調に推移している地元企業も親企業の状況によっては不安定になることから、今後の動向を懸念している。

●商業

諏訪地方の9月の天候は、8月に続いて記録的な残暑となった。月平均気温は、1945年の長野地方気象台統計開始以降、9月としては3番目の高温で、月降水量も平年の約6割にとどまった。豊作だったキャベツやハクサイは緊急需給調整が発動され、出荷調整があった。ダイコンやキュウリ、ナスなどの値段も下落した。衣料は秋冬物の出足が鈍く、暖房機器も動きが出始めたのは月末にな

ってからと、季節商品が苦戦した。一般家庭のガス需要も低かった。

自動車販売は、諏訪地方の9月の車庫証明件数(軽自動車除く)が1,009台と前月比で153台増加(+17.9%)した。前年同月比では16台の増加(+1.6%)で、昨年12月から10ヶ月連続で増加を維持したものの、伸び率は縮小している。

●観光業

9月は信州諏訪温泉博覧会や長野技能五輪に向けたおもてなしプロジェクト、御柱体験と新作花火大会のセット企画、温泉朝市、JR駅イベントなど各地で観光客を取り込む動きがあった。上諏訪温泉の宿泊客数は、秋分の日が土曜日と重なったことなどから、宿泊人数は全般的に前年を下回り、前年同月比80%前半～90%後半の施設が多い。秋冬にかけて団体客予約も鈍く、施設間では価格競争もある。蓼科・白樺湖などの高原の観光地は、高山植物のシーズンが終わり、前月比では減少したが、前年同月比では増加した施設が多い。富士見高原も入場者、売上とも増加した。紅葉シーズンに向けた予約状況は施設によって区々となっている。

●建設業

市町村の9月の発注工事は、岡谷市の病院事業関連による蚕糸博物館・美術考古館の解体工事など土木工事・下水道工事57件、建築工事5件、その他工事11件の合計73件529百万円で、前年同月比で件数は13件、契約金額は605百万円の減少となった。県関係の9月の公共工事(地元業者受注分)は18件759百万円で、平成24年4月～9月の累計契約は79件2,314百万円となり、前年同期累計比で件数は3件減少、契約金額は426百万円の増加となった。

民間工事は、諏訪地方の8月の新設住宅着工戸数が94戸と前年同月比71戸の減少(△43.0%)となった。また、平成24年4月～8月までの累計着工戸数は434戸で、前年同期に比べ82戸の減少(△15.9%)となっている。また、長野県内の8月の新設住宅着工戸数は931戸で、前年同月比32.4%の減少となり、2ヶ月ぶりに減少した。

●雇用

諏訪地域の8月の有効求人倍率は、前年同月を+0.01ポイント上回り0.81倍となった。全国の同倍率は0.83倍、長野県の同倍率は0.80倍で、ここのところ諏訪地域は、県や国の倍率より下回っていたが、ほぼ同様な数値となった。

諏訪地域の8月の新規求人(全数)は1,352人で前年同月比84人の減少(△5.8%)、新規求職者数は1,027人で前年同月比74人の減少(△6.7%)となっている。業種別の前年同月比の新規求人数は、飲食店・宿泊業で25.3%増加したが、建設業が24.1%、その他サービス業で17.2%、製造業でも14.3%の減少となった。前月比では飲食店・宿泊業で47.3%、医療・福祉業で43.7%増加したが、その他の産業で31.9%減少した。

なお、8月の1件10人以上の人員整理は2件79人、事業主都合による雇用保険資格喪失者は150人で前年同月に比べ68人、前月より63人それぞれ増加した。

業種別動向

1.電気機械

プリント基板	円高、タイ洪水、欧州経済の影響に加え、中国との領土問題もあって業界全体が低調に推移している。
プリンター	在庫調整で減産要請があり、親会社の動向で受注減少の予想もある。
コンタクター・リレー	堅調な分野もあるが、コンピュータ関連などでは企業の設備投資少なく、低調。材料の銅の単価が高止まりし、収益を圧迫している。

2.輸送用機械

自動車	ハイブリット向け部品は高水準の受注が続く。増産となった部品がある一方で、受注減少した部品もある。
ピストンリング・シリンダーライナー	欧州向けは低調。中国の工場は稼働しているものの、材料仕入れが遅れぎみの所もある。
船外機	これまでよりやや減少傾向。

3.一般機械

工作機械・専用機	欧州、中国向けで厳しさが続く反面、大型機械が堅調な所もあり、企業や納入先により区々。
搬送用機械	食品業界などに需要あり、引き合いもある。
金型	総体的に低水準で推移している。
ダイカスト	企業により区々だが、自動車関連はハイブリットの受注が中心。中国、欧州向けは減産が予想される。

4.カメラ・レンズ

デジタルカメラ	全国のデジタルスチルカメラの8月の生産台数は877万台で前月比10.2%増加、前年同月比25.6%減少となった。8月の出荷台数は国内出荷71万台、海外出荷800万台の合計871万台。出荷台数全体では前月13.3%増加、前年同月比は25.3%減少となっている。 デジタル一眼レフカメラ関連の下請企業の受注は増減区々。カメラ鏡枠切削業は世界的に需要あり、日本の技術が諸外国に勝っている。
レンズ	総体的に横這いで推移。大手メーカーに自社内でレンズ工程取り込みの動きもあり、さらに価格競争激化が予想される。

5. 繊維

ニット

遅れていた秋物量産と冬物サンプルが本格化してきた。

6. 食品

寒天

卸は大口の取引先の注文が減少、輸入物や粉寒天に押され気味だが、人気は根強い。

味噌

生味噌は出荷ベースでは減少傾向だが、麹関係の販売は好調。

7. 製材

諏訪地方の8月の木造住宅着工戸数は79戸で、前年同月に比べ58戸の減少となった。

8. 建設

公共工事

9月に地元業者が受注した県関係の公共工事は、諏訪建設事務所9件、農地整備課5件、長野国道事務所等国関係2件、その他土木工事2件の合計18件、契約金額759百万円となった。また、平成24年4月～9月の累計契約は79件2,314百万円と前年同期累計比で件数は3件減少、契約金額は425百万円の増加となった。

市町村の9月の発注工事は、建築工事5件25百万円、土木工事及び下水道工事57件422百万円、その他工事11件81百万円の合計73件529百万円で、前年同月比で件数は△13件、契約金額は△605百万円の減少となった。7～9月に入り、主力の諏訪建設事務所の契約状況が伸び、工事が形となってきた。

民間工事

諏訪地方の8月の新設住宅着工戸数は94戸で前年同月比では71戸の減少(△43.0%)となった。前年同月比の利用関係別では、「持家」は35戸減少の79戸、「貸家」は34戸減少の10戸、「分譲」は2戸減少の5戸となった。平成23年4月～8月の累計は434戸で前年同期累計に比べ82戸の減少(△15.9%)となった。利用関係別では、「分譲」は7戸増加(+35.0%)したが、「持家」が25戸減少(△6.4%)、「貸家」は63戸減少(△61.8%)している。

また、長野県内の8月の新設住宅着工戸数は931戸で、前年同月比32.4%の減少となっている。なお、前年同月比の利用関係別では、「持家」が666戸で26.5%減少、「貸家」は199戸で37.8%の減少となった。

9. 商業

衣料	紳士、婦人のフォーマルは前年並みだが、レイングッズや初秋の洋服など季節物の売上が伸びなかった。
食料品	天候の影響で冷麺類の売上は例年より延長したが、煮物関係の具材は不調だった。ダイコンやキュウリ、ナスなどの価格が下落し、マツタケも例年より遅れた。
家電製品	市場では太陽発電システムへの関心が急速に高まり、売上も好調。その他家電は低調に推移している。
自動車	補助金終了後、顧客の反応が鈍くなり今後の減少が予想される。軽自動車に軸足を変える店舗もある。
ホームセンター	運動会用の使い捨て弁当箱や紙コップ類、レジャー用の木炭、農作業用品などに動きがあり、気温が下がった月末から暖房用品も出始めた。

10. 観光

上諏訪温泉	旅行代理店などで東日本方面への誘客が積極的に行われ、減少した団体客獲得のための価格競争が見られる。
蓼科・白樺湖・車山等	前月より減少したものの、暑い日が多く、休日の度に涼を求める観光客が多く訪れた。富士見高原の各施設も好調だった。
下諏訪温泉	宿泊客は全体的に低調で、売上は前年比を下回る施設が多い。
諏訪大社	上社・下社合わせた9月の参拝者数は約61千人と前年同月比約1.2千人増加した。

企業からのコメント・反日デモ関連で先行き懸念の声(製造業)

- ・ 中国の営業所を閉鎖した。情報収集拠点としていたが、デモなどでリスクが大きいことを感じる。
- ・ 予定された中国への視察が中止となった。
- ・ 部品の受注が決まりかけていたが、情勢悪化で急遽キャンセルになった。
- ・ 領土問題による原材料への影響が懸念される。
- ・ 中国の現地法人から受注開始となったが、反日デモの影響で部品の船便遅れが発生した。
- ・ 中国との取引は否めない時代で、産業全体が対中国問題で影響が出ると思われる。
- ・ 中国企業との交渉がまとまったが、尖閣を巡る問題で経済制裁があると元に戻ってしまう。
- ・ しばらく良かったが、領土問題、補助金切れで見通しは不透明。
- ・ 中国に現地法人を立ち上げる計画があったが、尖閣問題で中止を言い渡された。
- ・ 日中関係が不安定な状況で、主要市場である中国内需要の動向に左右される。
- ・ 親会社の仕事は先月比大幅減少。デモによる不安要素も影響している。
- ・ 現状は大きな影響は出ていないが、中国との関係悪化が今後影響してくるのでは。